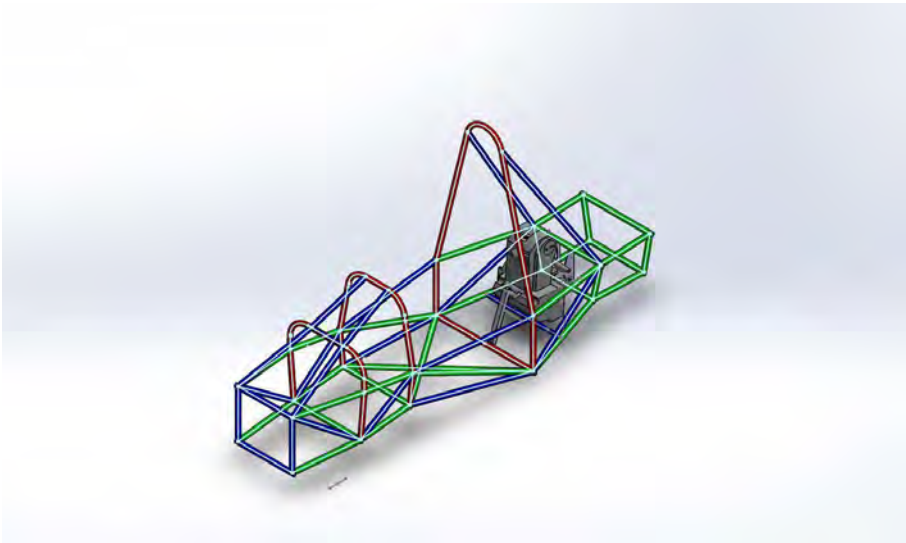


CIT-Racing Team

CIT-Racing Team



2015年大会を振り返って



Presentation

プレゼンテーション

今年の車両のコンセプトとして、「軽量化」「整備性」の向上をめざし車両を製作しました。フロントサスペンションをプルロッド方式に変更し、アーム内にサスペンションおよびベルクランクを収納することで、ドライバースペースを確保しフロントカウル上部をすっきりさせました。さらにデザイン性を向上させるとともに、強度的に有利なプルロッド方式にすることによって、ロッド径を細くし、軽量化を図りました。

エンジン関係ではサイレンサーをストレート排気型から多段膨張式に変更したことにより改善しました。去年から問題であった電装の取り回しは、端子盤をシート裏に固定することで配線の取り回しを改善し、整備性を高めました。

フレームはフロントフープを前年度より前に出すことにより、エンジンまわりの整備性を高めました。以前の車両ではエンジンを取り外す際、8分程度かかっていましたが、今年の車両は4分弱に短縮することができました。またフープを一本増やしたため、作業量の短縮とテンプレが曲げた際の余裕が生まれ、フープの高さを低くすることにより軽量と重心の位置を下げることに成功しています。

今大会では作り込みの甘さから動的審査に出場することはできませんでしたが、設計思想と改善点は間違っていないと感じております。来年度はより完成度の高い車両を製作したいと思います。

Participation report

参戦レポート

今年度の大会はすべての動的種目への参加およびエンデュランスの完走を目標にしてきました。車両の製作自体は例年より2ヶ月ほど早いペースで進んでいましたが、セルモーターの破損などのトラブルに見舞われ、予定していた試走会にも参加することができない状態で大会を迎えました。

デザイン審査ではシート裏の端子盤や車両のシンプルさなどが評価されましたが、工夫した点が資料に書かれていなかったことや、各部の作り込みの甘さが指摘され得点を伸ばすことができませんでした。コスト審査では裏づけ資料の少なさを指摘され、来年以降の資料製作を改める必要があると感じました。車検ではリヤのロワアームが歪んでいたため、安全上の問題から車検通過することが残念ながらできませんでした。

今大会では自分たちのレギュレーション把握の甘さ、資料不足、設計不備など多くの問題点が出ました。そうなった原因として上記のトラブルがありますが、物が壊れた際の原因特定に時間をかけ過ぎてしまったと感じました。大会終了後に「試走会に参加して、車検を受けていれば結果は違っていた」と痛感しております。来年度は今回の経験と悔しさをバネに完璧な状態で大会を迎えられるように努力していきます。

今回の総合結果・部門賞

●総合 78位

Profile チーム紹介・今までの活動

私達、日本大学生産工学部 CIT-Racing Team はチームメンバー9人で活動を行なっております。活動資金も限られた中で苦勞することは多いですが、部員の情熱と先輩たちの助言で2015年度車両を完成させ、大会に出場することができました。

Team-member チームメンバー

上田 泰正 (CP)

氏家 康成 (FA)、赤津 紀薫、川合 孝汰、伊東 一輝、高館 洋太郎、渡邊 雅人、松田 明子、對野 志星、廣谷 和馬

Sponsors スポンサーリスト

本田技研工業、NTN、Solid Works ジャパン、F.C.C、クイック羽生、AUTOLAND TECHNO、日信工業、NOK、Sakata Designers